

秋篠宮ご夫妻がブラジルで JICAボランティアとご懇談

info. 01))

日本・ブラジルの外交関係樹立120周年にあたってブラジルを訪問された秋篠宮ご夫妻が、10月28日、同国に派遣されている日系社会青年ボランティアと日系社会シニア・ボランティア58人とご懇談されました。両殿下は、各地で活動するボランティアひとりひとりの声に耳を傾けられました。

タジキスタンで安倍昭恵首相夫人とSVが会食

info. 02))

10月22～27日に中央アジア各国を歴訪した安倍晋三首相と昭恵夫人。タジキスタンを訪れた24日、昭恵夫人は国立言語大学日本語学科の関係者と会食をされ、同大学で日本語教師として活動する村松芳明さん(短期SV・タジキスタン・日本語教師・H26年度派遣)も同席しました。

地方創生まちづくりEXPO

info. 04))

「まちてん」に特設ブースを出展

11月28、29日に東京・渋谷区の渋谷ヒカリエで「地方創生まちづくりEXPO『まちてん』～地域の未来をデザインする～」が開催され、まちづくりを牽引する企業や行政、NGOなどの関係者がそれぞれの取り組みを紹介しました。両日で2000人以上が参加したこのイベントに、JICA青年海外協力隊事務局は、特設ブースを出展するとともに、ミニセミナーを開催しました。

両日出展した特設ブースでは、まちづくりのキャリアを身につけるための提案としてJICAボランティア事業と途上国や日本でJICAボランティアが取り組んだまちづくりの事例を紹介しました。また、29日に行われたミニセミナー「途上国で、まちづくり」では、帰国後に日本のまちづくり分野で活躍する協力隊OBOGが登壇。群馬県庁の農政部職員として若手の農業塾や営農支援などを行う栗原邦泰さん(ザンビア・稲作・H13年度2次隊)と、帰国後群馬県甘楽郡甘楽町で就農した高野一馬さん(モザンビーク・野菜・



青年海外協力隊事務局ブースで、来場者に協力隊の活動を説明するJICAボランティア経験者

2015年度秋募集の応募者数

info. 03))

JICAボランティアの2015年度秋募集が終了しました。「体験談&説明会」を全国で実施しました。

今回の秋募集における青年海外協力隊への応募者数は1313人で、日系社会青年ボランティアは71人の応募がありました。また、シニア海外ボランティアでは669人、日系社会シニア・ボランティアでは172人の応募がありました(以上、すべて延べ人数)。

青年海外協力隊および日系社会青年ボランティアは、12月9日に一次選考結果が発表され、2016年1月上旬に二次選考、2月12日に最終的な合否決定が行われます。また、SVは15年12月7日に、日系社会シニア・ボランティアは11月30日に、それぞれ一次選考結果が発表され、二次選考の結果発表は16年2月1日となります。



上:60人以上が参加したミニセミナー

右:「まちづくりとは何か」をボードに書いた登壇者の4人と、司会を務めた高砂大さん(パナマ・村落開発普及員・H9年度3次隊)(右)



H18年度2次隊)、同町にあるNPO法人自然塾寺子屋の海外事業部で研修生の受け入れや地域活性化事業に取り組む森栄梨子さん(ホンジュラス・村落開発普及員・H22年度4次隊)、同法人の浅井広太さん(ネパール・村落開発普及員・H24年度3次隊)が協力隊での活動や現在の業務、まちづくりで生かされている協力隊経験などについて話しました。派遣国で農村のすばらしさを知り、現職に就いたという森さんは「自分が楽しく働き生活する姿を紹介することで、この町の良さを伝えたい」と話し、高野さんも「私が働く姿を見て、共感してもらえれば、農業をしたい人が増えるのでは」と伝えました。「まちづくりとは何か」という問いに、浅井さんは「それぞれの地域が表情を豊かにすることで、いろいろな人が集まり、日本を面白く豊かにすること」と回答。栗原さんは「何をやるうか迷っている人は、経験や知識をぜひ地方で生かしてほしい」と参加者に訴え、セミナーは終了しました。